

卯

2011

飛躍の年に

毎年ユニークな干支作品の創作を続けている
工芸作家の作品を紹介します。

屏風山彫干支絵馬

糸鋸工芸館 木造出来島

長内正春

一枚の板からできているとはびっくり。電動糸鋸を自在に操り1981（昭和56）年から干支絵馬を作り続けているのは糸鋸工芸作家の長内正春さん。

長内さんが製作している絵馬は、大きさが縦14センチ、横21センチ、厚さ13センチ。青森ヒバの板から電動糸鋸を使ってウサギの頭や胴体、足など計6つのピースを切り抜きます。糸鋸台を微妙に傾けながら切ることでそれぞれピースが凹凸に組み上がり一枚の板から立体的なウサギが飛び出します。

干支作りを始めてちょうど30年目を迎えた長内さんは「ウサギのようにワンステックでもいいから皆さんが飛躍できることを願い作っています」と話していました。

OSANAI MASA HARU

津軽亀ヶ岡焼

しきろ庵 木造館岡

一戸広臣

今にも飛び跳ねそうな可愛らしいウサギ。胴体には縄文をモチーフにした雲形文様を彫り込み朱色、金色で彩色。一体一休作りでポーズや表情が異なるウサギを生み出すのは館岡で津軽亀ヶ岡焼の看板を掲げる一戸広臣さん。

一戸さんは4年前作った干支の亥が好評だったことから、以来毎年干支を作るようになった。普段のろくろの仕事とは違いあまり慣れないが逆に楽しいと。

「ウサギは耳が特徴なので作りやすかった。これから新しい干支にチャレンジしていくが亀ヶ岡の縄文文様は必ず入れるつもり。それがこの土地らしさであり、自分のスタイルだから」と自身のこだわりを語っていました。

ICHINOHE HIROOMI

